

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：キャリアセンター	担当部局：キャリアセンター
大項目	8 学生支援 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	8.0.4 学生の進路支援は適切に行われているか。	
要素	進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施	
	キャリア支援に関する組織体制の整備	
	キャリア教育の適切性	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 就職率は景気動向に関わらず85%以上とする	→就職率・・・分母は「就職希望者」ではなく、「卒業者」である。具体的には(就職決定者+自営)÷(卒業者-進学決定者)	B
2. 1～2年生向け体験型実習プログラムの参加者数を年間400名以上とする	→体験型実習プログラム・・・2008、2009年度の例で示すと、「マスメディアで働く」「ネクストリーダーズ・プロジェクト」「ウィメンズ・エグゼクティブ・リーダー養成塾」「KGワークラボ」「ベンチャー・インターンシップ」「市長インターンシップ」「グローバルリーダー・インターンシップ」「ワンディ・インターンシップ」	A
3. 年間の企業訪問数を延べ500社以上とする	→年間の企業・団体訪問件数(延べ数)・・・キャリアセンター職員による訪問	B
3-2. 大学として把握可能なインターンシップ派遣学生数を年間延べ300名以上とする		B
4. 学生が常駐する4キャンパスにおけるキャリア支援サービスの均質化を図る	→各キャンパスへの課長または主任の配置・・・指示命令系統の一本化によるサービス水準の均質化	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

## 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★	小項目8.0.4	<p>(方針) 自分の進路を自分の力で開拓できる自主性・主体性を備えた学生は減少傾向にある。しかし、最終的な進路については、学生の自己責任で決定すべきであるので、時期を睨みながら多様な進路があることを多くのロールモデルを提示しながら指導していくことが効果的だと考えている。</p> <p>(現状説明) 「ゆとり教育」を受けて育った者が、いわゆる「大学全入時代」に学生となり、卒業時には世界的な景気の低迷期と重なり、各大学とも学生の進路支援に苦慮している。本学でも同様であり、そのような学生に各人ごとに自分らしい生き方があることを理解させ、自分に向いていると思われる進路を自らの力で見出せるよう支援している。</p> <p>そのための最初のプログラムが、入学式直後に実施している「新入生キャリアガイダンス」であり、これを含め、低学年生向けの企画の強化を続けている。</p> <p>また、聖和キャンパスの増加もあり、西宮上ヶ原、大阪梅田、神戸三田の4キャンパスで平準化された均質のサービスを提供すべく各キャンパスに主任以上の役職者の配置を要請しているところである。</p> <p>キャリア教育の必要性が叫ばれて久しいが、次年度からは大学設置基準の改正施行もあり、正課や正課外といった区分ではなく、もっと全学的に一体的な取組が求められており、現在キャリアセンターのみならず各部門で検討しているところである。</p>
★	その他	

## 《特定6項目データ》

本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

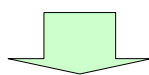
	単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考
指標1 第一回キャリアガイダンスの有効性について	%	-	82.3	78.9	41.8	95.9	文系学生対象・第一回キャリアガイダンスのアンケートで「とても参考になった」「参考になった」「あまり参考にならなかった」「参考にならなかった」の4段階評価のうち「参考になった」以上。
指標2 就職決定率	%	97.7	98.8	98.4	97.6	96.5	就職決定者÷就職希望者
指標3 就職率	%	80.0	87.0	87.6	88.1	82.8	(就職決定者+自営)÷(卒業生-進学)
指標4 就職先への満足度調査	%	93.5	93.5	98.0	94.9	89.2	内定企業への満足度(就職決定時のアンケートより) 「非常に満足」「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」「おおいに不満」の7段階評価のうち「やや満足」以上
指標5 人気上位100社への就職者の比率	%	14.9	20.6	21.7	19.2	16.6	人気企業100社はリクルートワークス発表による 人気企業100社への就職者数÷就職決定者

注) 指標1は、2006年度から調査開始。2008年度までは「役立った」「どちらかというと役立った」「どちらともいえない」「どちらかというと役立たなかった」「役立たなかった」の5段階評価のうち「どちらかというと役立った」以上。  
注) 指標4の2005年度は、「満足」「まあまあ満足」「やや不満」「不満」の4段階評価のうち「まあまあ満足」以上。

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目8.0.4	個人就職相談(進路選択に関わる指導、組織体制の整備)
	その他	



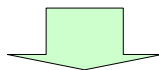
## 【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

★	小項目8.0.4	就職環境が厳しい状況下では、全体的な指導では効果に限界があり、個人相談の一層の充実が必要である。繁忙期と閑散期の格差を考えると流動的労働力(派遣職員)での対応が現実的である。
	その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目8.0.4	複数キャンパスにおけるサービスレベルの均質化(組織体制の整備)
	その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目8.0.4	今後の目標として、それぞれのキャンパスに主任以上の役職者の配置が必要である。特に神戸三田キャンパスは学生数の増加に加え、本学唯一の理系学部の存在があり、早期の実現が求められる。
	その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★ その他  
(自由記述)

## Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

## 【学外委員】

- 就職関係の各指標をみると、いずれも直近は厳しい結果になっていますが、最近の企業業績、就職環境を考慮すると、まずまず健闘しているとみられます。
- 関係強化企業への就職など、重点目標に掲げている点については、引き続き注視していくことが期待されます。
- 低学年へのガイダンス、実習プログラムなどのプログラム提供の狙いはよいとみられますので、その成果の確認・検証等のPDCAを充実させることが期待されます。

## 【学内委員】

- 世界的な景気低迷期においてデータに示されている実績を上げていることは評価できます。
- （方針）は小項目8.0.1に移されるのが適切ですが、シートの構成を考えれば現状の方が見やすいため、このままとします。
- 掲げられた目標にも触れながら、プログラムの現状などについて説明があれば、なおわかり易いと思います。また、特定6項目データについての簡単な説明があっても良いでしょう。社会への説明という意味からも、具体的でわかり易い説明も念頭に置いてください。
- 個人相談が「効果が上がっている事項」に記載されていますが、どう効果が上がっているのかかわかりません。記載をお願いします。
- 「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行」に留意し、遺漏のない様に対応してください。
- 昨今の状況の中では、就職決定率および就職率は良好な成果を上げているものと評価できます。しかし、さらにより成果を上げるための努力が期待されます。
- 大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」（ハンドブックP78～）に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 個人相談の効果について質で検証・証明することは困難であるが、相談後に書類選考や面接を通過した、などという報告を再度の個人相談の際に聞く機会が多い。このように相談の成果を実感して再度相談に来ていると仮定すれば相談者数の増加がそれを証明しているともいえる。
- 確定している相談者数で比較すると、2009年度は対前年度比で23.4%増（4507名→5560名）となっており、2010年度も9月末までの前年度比較で23.6%の増加（1796名→2210名）を示している。

## Ⅴ. 本項目の評価指標

## ＜全学的な指標＞

8.0.0.S6	就職率
8.0.0.S7	女子学生の職掌別就職状況（総合職、準総合職、専門職、一般職）
8.0.0.S8	キャリアセンター主催プログラム（ガイダンスなど）への参加率
8.0.0.S9	男子学生と女子学生の比較で、就職決定先に満足している卒業予定者の比率

## ＜個別的な指標＞
